

復刻版
第1集～第5集

従来の公刊資料より欠落していた
地方機関誌・紙類を中心に
水平運動・部落史研究に必備の
一次資料を集大成！

水平運動・部落史研究資料

差別撤廢
因襲打破
自由平等
人間禮讚

① 更生

全7巻・別冊1
本体揃価格60,000円

③ 初期水平運動資料集

全5巻・別冊1
本体揃価格85,000円

② 警鐘

全1巻
本体価格15,000円

④ 愛国新聞

全1巻
本体価格18,000円

⑤ ワシラフシンゲン

全1巻
本体価格18,000円

不二出版

いま、水平運動の原点が問われている！全国各地で創刊された初期水平運動の機関紙・誌は、運動の原点を示すと共に、全国水平社創立当時の熱気とエネルギーを、我々に直に伝えてくれる。研究者のみならず、運動および行政にたずさわる者、教育関係者必読の書である。

不二出版

水平運動・部落史研究資料⑤

監修 渡部 徹(故人)
推薦 秋定嘉和・田中真人・馬原鉄男(故人)

初期水平運動資料集

●収録資料一覧	
<p>第1巻</p> <ul style="list-style-type: none"> 『水平運動』(岩崎水平社(奈良・宇陀郡) 24年10月) 『聖戦』(聖戦雑誌社(三重・松阪市) 24年11月) 『人類愛』(水平宣伝部(奈良・山辺郡) 23年11月) <p>第2巻</p> <ul style="list-style-type: none"> 『相愛』(群馬県水平社本部 24年2月) 『防長水平』(防長水平出版部(山口県・吉敷郡) 24年1月) 『燃え挙る心』(梅戸水平社(奈良・磯城郡) 22年11月) <p>第3巻</p> <ul style="list-style-type: none"> 『愛国』(愛国同志会本部(大阪・天王寺) 23年9月) 『国民運動』(国民研究会(京都) 23年6月) 『正義之声』(正義之声社(大阪市平野区) 26年1月) 『野火』(大衆社(大阪) 26年3月) <p>第4巻</p> <ul style="list-style-type: none"> 『自由』(関東水平社聯盟(群馬県・新田郡) 24年7月) <p>第5巻</p> <ul style="list-style-type: none"> 『自由新聞』(静岡・埼玉) 25年6月) 『平等新聞』(静岡) 26年1月) 『水平線』(西浜水平新聞) 24年11月) 『大阪水平新聞』(関西水平新聞) 24年11月) 『全国水平新聞』(長野) 27年7月) 『関東水平運動』(東京) 23年7月) 『新聖潮』(関西新聖潮社(奈良) 25年9月) 	<p>●復刻版概要</p> <p>全5巻・別冊1</p> <p>A5判・B5判・A3判／総2,042頁</p> <p>別冊 解説(藤野豊)・総目次・索引(1,000頁)</p> <p>●本体価格</p> <p>揃価85,000円</p>

『初期水平運動資料集』推薦の言葉

埋れた民主主義の地下水脈をたどる水平運動の基本資料

秋定 嘉和・池坊短期大学教授

来る二一世紀にあと数年、二〇世紀の人間尊重の宣言は達成されたのであろうか。社会体制の差異をこえ噴出する人権要求の声は未だ深く大きいものがある。

日本における社会的平等の問題は、これまでしばしば論じられてきたように、女性の解放とともに被差別部落の「人間的平等」の達成なしにはありえない。

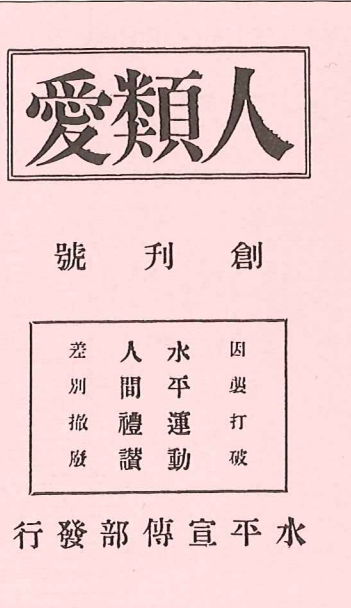
不二出版は、まさに『警鐘』・『更生』の二誌の復刻をおこなったが、それは「大正デモクラシー」の基底を担うものと、さらに戦時下をささえる被差別部落の実態にせまる基本的二文献ともいへば貴重なものであった。

このたび計画された『初期水平運動資料集』(全五巻)は、すでに復刻された『水平』・『水平新聞』・『選民』などを中央的機関紙・誌とすると、これまで日の目をみなかった水平社運動の地方機関紙・誌の復刻である。

中央紙・誌的位置をもっていた『水平新聞』など当時の社会主義運動に大きな影響をうけていたのに比較して、これら地方紙・誌はそれぞれ独自の個性をもち、ボル派の影響もさることながら、アナ派的主張も多く、また人道主義的な「水平宣言」の流れを固守するものあり、さらには天皇主義的・右派的潮流のものすら存在した。地域的にも広範囲に及んでおり、三重、奈良、山口、大阪、群馬、京都、滋賀、静岡、埼玉、東京など各地にわたり、その数は、今回の復刻分だけでも一九紙・誌(発行所別では二一紙・誌)にのぼり、いまのところ、今回分以外の地方水平社の主要な機関紙は『水平月報』(福岡)、『愛国新聞』(三重・ともに既復刻)となつた。判型もA5・B4・B5と多様で、刊行年月は、ほぼ一九二二〜二七年にわたっていた。

このように、『本資料集』は、時期・思想・地域にわたり多彩な傾向・内容をもっており、今日の問題意識から分析をせまるものである。

このことも、さることながら、ここ三分の二世紀にわたり埋れた日本の民主主義の地下水脈ともいへば内容が現出したことを「天皇即位」とともに見つめていきたい。



部落史研究に不可欠の 闘う側の史料を復刻

田中 真人・同志社大学教授

水平社創立以後の解放運動の資料を体系的に提供した代表的なものとして、渡部徹・秋定嘉和編『部落問題・水平運動資料集成』全五巻（一九七三〜七八）がある。同集成の編者序文によれば、この資料集が官憲側の資料から編集を始めた理由として「運動側史料である全国水平社本部の機関紙・誌の復刻版や、全国大会議案書などの史料集が刊行されているのに反し、運動の推移の全体像や内部事情、さらには官憲側の対策、部落調査結果などを伝える膨大な史料が利用困難な状態に放置されていたから」という。しかしその官憲史料も「特に一九二二年の全国水平社創立直後は、官憲側の運動への対応の体制が組織的に取られていなかったため、運動のそれぞれの時期での状況把握は系統的になされていない」とし、「官憲側史料をきわめて密度高く収録してみると、既刊の運動側史料はいかにも密度が薄く、両者の不釣り合いが目立つ」ように感じられたという。これが同史料集成が当初の官憲史料中心の全三巻に運動側史料を加えた補巻二巻を加えた理由のようだ。そして一九二〇年代をあつかった同集成補巻第一巻には『自由』『新聖潮』『燃え拳る心』など今回の『初期水平運動資料集』に収録されるもののごく一部分が納められた。

しかしこれらの地方段階での水平社機関紙類は三重県の『愛国新聞』の復刻（一九七五年）など少数の例外を除いてその全貌を見るのは容易ではなかった。『水平運動並に之に関する犯罪の研究』（『司法研究』一九二七年）には十二の水平地方機関紙を紹介しているが、今回不二出版と藤野豊氏の努力によりこれをうまわる地方機関紙を容易に見ることができることとなった。京都、奈良、三重をはじめとして地方レベルでの大規模な部落史の編纂による研究の精緻化が進んでいるが、このたびの復刻がいつそうその機運を進めることを期待したい。

燎原を焼きつくす、水平運動のもうひとつの側面をみる

馬原 鉄男・元立命館大学教授（故人）

三年後には、全国水平社創立七十周年を迎えることになる。水平運動の原点が問われている、全国各地で創刊された初期水平運動の基本資料を手にするには、研究者ばかりでなく運動、行政、教育関係者にとっても期待される場所が大きい。

初期水平社の運動を特徴づけるのは、徹底的糾弾闘争にいやしたエネルギーと匹敵するほどの力を宣伝、教育活動に投入したことであろう。水平運動の意義を社会的に訴えるとともに、部落民自身にたいしても人間としての自覚を求め、運動への積極的な参加を促していった。ここに収められている諸資料は、いずれもそうした初期水平運動の原点を示しており、差別の根源を求めてやまない指導者層の旺盛な知的探究心と、解放への熱気を伝えている。

この資料のうち最も早期に発刊された奈良県梅戸水平社の機関紙『燃え拳る心』（一九二二年十一月刊）は、その発刊の辞で「過去のあらゆる圧迫と迫害に冷え切つてゐた吾々の魂が、一朝の叛逆と共に、あらゆるものを焼き尽さんとする全身の熱を、思う存分吐き出すために『燃え拳る心』は生まれた」とのべ、「水平運動は熱であり、力であり、さうしてこの『燃え拳る心』もそれ等の中の一現象だと思ひます」と結んでいた。水平運動を生み出したエネルギーの所在と、それが全国的な潮流として奔騰する必然性を余すところなく伝えている。

初期水平社の機関誌をひもといて驚くことの一つは、水平社同人の創作が数多く掲載されていることである。西光万吉をひきあいになすまでもなく、水平社の指導者のなかには、香り高い文芸作品を残している人が少なくないが、それは地方水平社の場合についても同様に見ることができるといえる。小説・詩歌・戯曲・講演など、さまざまなジャンルに及ぶ文化活動の豊かさを思うとき、燎原を焼きつくすような荒々しい水平運動の、もう一つの側面をかいま見る思いがするるのである。

復刻にあたって

藤野 豊・日本近現代史研究者

全国水平社の運動は、ともすれば美化、神聖化されがちですが、現実には、創立当初は国家主義的傾向を強くもち、また、糺弾に名

を借りた暴力や運動の威力を利用した幹部の利権あさりも発生していました。一方、こうした事実をきびしく批判したマルクス主義者の青年たちは、水平運動の自主性を軽視し、日本共産党の革命路線にこの運動を追従させようとして、水平社内に分裂抗争をひき起こしました。しかし、水平社は組織内の腐敗と墮落を自浄しつつ、分裂を回避し統一を守る努力を続け、ついに組織を維持し続けること

に成功しました。

今回、復刻した機関誌紙類からは、そうした水平社の苦悩と努力とを読み取ることができ、また、わたくしは、その苦悩と努力の軌跡にこそ、水平運動の最大の歴史的意義があると考えます。今回の復刻が歴史学研究者はもとろんのこととして、部落解放運動の新生を願う方々にも活用していただければ、幸に存じます。

BRAZE UP OUR HEART

心る拳え燃

目次
燃え拳る心
自由
相愛
愛国
野火
聖戦
人類愛
燃え拳る心
相愛
愛国
野火
自由

創刊 十一月二十一年
社平水戸梅

相愛

水平運動
人間禮讚

群馬縣水戸平社
本部發行

愛國

創刊 號

大正二十九年七月七日發行

- △會報の發刊に際して……會長 森 秀次
- △愛國同志會の創立を祝す……顧問 菊池 侃二
- △愛國の發刊を祝して……顧問 梅上 尊徳
- △これ喜ぶべきか悲しむべきか……編輯 大谷 盛昭
- △余の感想……文筆士 武内 可温
- △差別撤廢の叫び……地方幹事 細見 春吉
- △地方問題の關係人物 前山 三遊氏 寺田 蘇人
- △遊説日記（山崎 九州）……同人

愛國同志會本部

NOBI

野火

三 月 號

THE SU+HEI CULT
自由
創刊 號 月 七 年 一 一 一 一
社平水戸梅

- ① 聖戦——24年11月
- ② 水平運動——24年10月
- ③ 人類愛——23年11月
- ④ 燃え拳る心——22年11月
- ⑤ 相愛——24年2月
- ⑥ 愛国——23年9月
- ⑦ 野火——26年3月
- ⑧ 自由——24年7月

『初期水平運動資料集』内容見本

①「燃え拵る心」、②「聖戦」、③④「人類愛」の各創刊号より

縮小しています。

發刊の辭

水平社の創立とエタ民族の自覺とに伴つて、特殊部落農村の先驅者となつたのが今日發刊する「燃え拵る心」であります。過去のあらゆる壓迫と迫害に冷切つてゐた吾々の魂が、一朝の叛逆と共に、あらゆるものを焼き盡さんとする全身の熱を、思ふ存分吐き出すために「燃え拵る心」が生れました。

水と火とはどちらが強いか、これは問題になりませんが、それは丁度沈衰した考人と生命の躍動とも云ふ可き青年との比喩です、老人は行き詰つてゐます、青年は希望に満ちてゐます。

過去の部落解放運動と現在の水平運動とを比較する時、誰でも水と熱とを聯想するのでしやう、次には何れが威力と可能性を有してゐるか云ふ事も考へ得るでしやう。

水平運動は熱であり、力であり、さうしてこの「燃え拵る心」もそれ等の中の一現象だと思ひます。

水平運動の歌

(革命歌の體)

▲思へ過去の慘虐史 亘るや長し何千年 父母は冷き陋屋に 祖先は荒野の一角に やがて奪き生命は 彼等のために奪はれし 腹賑々の血がとびて 度げられしエタの子に 叛逆の血を燃さんか 力の呪はしき追害に 眠りし者は月醒ても 目醒し者は矛を取れ 怨みに光る 刃にも 正義の魂寫るなり 正義に反抗ふ敵ありや 正義の旗を翻へし 叫びておこる集團は 高き血潮の旗かざり 吾等に自由を與へよと 白熱を飛ばすなり ▲吾等も同じ呪ひの子 過去千年の壓迫に 堪へしエタの魂も 今こそ出で、光あり ▲吾等の立つべき時は今 此混亂のたゞ中に 奮ひてたてよ三百万 正義の旗を翻へし 差別の波を突破す 時は今なりいざやいざ ▲正義に強き我がたまし 此混亂の只中に 仇か火華と飛散して 人間の價値を高ならし 水平線に現はる、 時は今なりいざやいざ

卷頭言

社會は日進月歩である、夕に發足して、朝には百里貳百里離れた土地で見物して話しは百里貳百里離れても電話で話される、文明の夜の中になつた、此文明の社會に今尙舊慣に囚はれて、同一の人間でありながら侮蔑、迫害、抑壓に泣きつゝあつた同胞がある、が何時迄もそうした事に屈從する事は嫌になつた、弱き者は弱き者で種々考へた、侮辱、迫害、差別、賤視、の觀念を除去するには只團結あるのみぞ、虎は獸の中でも一ばん猛き獸として知られてゐる、蟻は虫類の中で最も小なる部に屬してゐますが、此猛獸と此小虫が争ひに全對は虎が勝利と判定を下すは理の當然であるが弱き者は一致する事を常に心掛けてゐる、虎と蟻との争ひも蟻の勝利に歸した、小學讀本に記載してあります、私共は私共自身の力を信じ、其力によつて私共の進む道を開拓し、(よき日)を一日一時も速かに創造して社會人類が共存共榮、相互扶助と云ふ様な美しい社會光輝ある見るからに團樂たるものでありたい。

發刊の辭

千數百年の長い間重き鎖鎖につながられ暗き人生をなめた吾人の祖先は實に愛の渴仰者であつた。吾々は今、目を瞑つて靜かに吾々の子孫を思ふに憐然と憤りて其の過去の夢を繰り返す事の餘りに悲愴なるに恐怖せざるを得ない。

吾等が斯くの如き殘虐を堪え忍び、さうして幾年も悲愴な生活をつづけねばならぬのは何故であらうか。

果して、いつ解放さるゝ機が来るのであらうか。

吾等は、ちつと手を拵ぬいて待つてゐれば其時機が来るのであらうか!

一昧、人間は神の子である、廣大無邊な天地の愛の力に依つて造られたものである。人間同士は天地創造の主を親と仰ぐ同じはらからである。互ひに尊敬し合ひ愛し合はねばならぬ。然るに人間同士が差別を附けて、いつ迄も鬭争を續けなければならぬであらうか。

否々、今や世界の凡ての平和を熟望してゐる、平和は人間間に愛の普渡平等が行はれて其目的を達し得るものである。

然るに、今尙人間間に迷信的差別觀念があつて、人間が人間を胃潰し迫害し、全然平和に反した行ひをなす者が多い。之等の誤つた因襲は愛の饑餓者をつくり、侮辱し更に職業や經濟の自由まで奪つて括して顧みない。此結果常に殘虐の鞭に苦しみ惱まされてゐる人々の群れにも、怒りと自暴自棄が萬

一爆發したならば、益々平和を乱すことなる!

吾々は現に「エタ」なる名稱を附されて、長い間の迫害に、なやまされて來た経験から、人間はどうしても人間同士禮讓し愛し合はねばならぬ事を切實に感ずるのである。

水平運動は斯くて全國一齊に行はるゝに至つた、これ正義を目的として進むものであつて、迫害されつゝある吾々兄弟の擧めしては其人道を重んずる点に於て大いに誇り得るものも信じてゐる。

世人の中には水平運動の末を見て其の根本を究めない者がある、之等の人は宜しく地位を轉倒して自から少數同胞の立場になつて考ふればハツキリと判る筈である。

世界の平和は「人類愛」の普渡平等に依つて得らるゝ、吾等が微力を願ふに、本誌を發刊する所以のもの、水平運動の宣傳に努め、以つて人間が人間を胃潰す悪習を打破し、此の國土をして愛の充實した、和氣霽々の天地たらしめんがためである。

敢て識者の共鳴を待つ。

大正十二年十一月

水平宣傳部同人

②

①

④

③

◎水平運動・部落史研究資料〔復刻版〕 第1集～第5集概要

1 更生

○ 原本——昭和10年3月→同16年8月／全40号
 ○ 概要——全7巻・別冊1/A5判・上製・函入・総2,688頁
 ○ 別冊——解題・総目次・索引(分売価1,000円)
 ○ 解題——藤野 豊(日本近現代史研究者)
 ○ 本体価格——揃価60,000円(’96年2月再刊)

2 警鐘

○ 原本——大正9年9月→大正11年8月／全19号(第2巻第1号は欠号)
 ○ 概要——B5判・上製・函入・572頁
 ○ 解説——松尾尊允(京都橘女子大学教授)
 ○ 発行——奈良県磯城郡大福村三協社
 ○ 本体価格——15,000円(’88年10月刊)

3 初期水平運動資料集

○ 原本——大正11年から昭和2年にかけての全国21紙・誌を収録
 ○ 概要——全5巻・別冊1/A5・B5・A3判・上製・函入・総2,042頁
 ○ 別冊——解説・総目次・索引(分売価1,000円)
 ○ 解説——藤野 豊
 ○ 本体価格——揃価85,000円(’96年2月再刊)

4 愛国新聞

○ 原本——大正12年5月→昭和2年3月
 『三重水平新聞』全2号
 『愛国新聞』改題『三重農民新聞』全47号(第31・33・36・44・46号は欠号)
 ○ 概要——B4判・上製・函入・314頁
 ○ 解説——黒川みどり(静岡大学助教授)
 ○ 発行——三重県松阪 愛国新聞社
 ○ 本体価格——18,000円(’90年10月刊)

5 ワシラノシンブン

○ 原本——大正13年7月→大正14年11月
 『ワシラノシンブン』改題『解放新聞』全30号
 ○ 概要——B4判・上製・函入・246頁
 ○ 解説——園部裕之(日本近代史研究者)
 ○ 発行——大阪府南河内 ワシラノシンブン社
 ○ 本体価格——18,000円(’90年10月刊)

○ 弊社は注文制です。
 お近くの書店へご注文ください。
 ○ 本カタログ中の表示価格は、
 全て消費税を含んでおりません。

不二出版

〒113 東京都文京区向丘一丁目二二
 TEL 〇三―三八―二一四四三三
 FAX 〇三―三八―二一四四六四
 振替 〇〇一六〇二一九四〇八四